

(8) 近畿



近畿地域では、景気は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある。

- ・ 鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している。
- ・ 個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。
- ・ 雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(△は上方に変更、▽は下方に変更)。

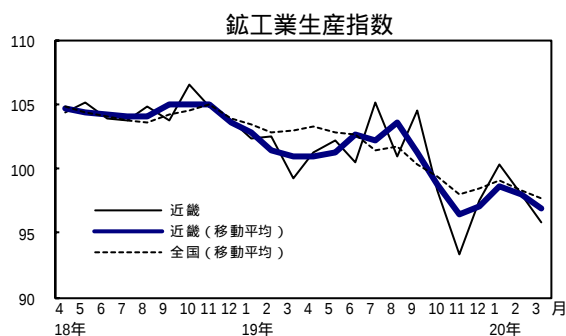
前回からの主要変更点

	前回(令和2年3月)	今回(令和2年5月)	
景況判断	足もとでは、新型コロナウイルス感染症の影響により、景況感が急速に厳しい状況になるなど、弱さがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に悪化しており、極めて厳しい状況にある	↓
鉱工業生産	弱含んでおり、新型コロナウイルス感染症の影響もみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している	↓
個人消費	足もとでは、新型コロナウイルス感染症による影響があり、弱い動きがみられる	新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している	↓
雇用情勢	改善	新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している	↓

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は新型コロナウイルス感染症の影響により、減少している。

1 - 3月期には、化学は、減少した。電気・情報通信機械は、リチウムイオン蓄電池等が減少したことにより、減少した。汎用・業務用機械は、コンベヤ等が増加したことにより、増加した。生産用機械は、ショベル系掘削機械等が増加したことにより、増加した。輸送機械は、航空機用発動機部品等が増加したことにより、増加した。



(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。近畿の最新月は速報値。
2. 全国及び近畿の太線は中心3か月移動平均。
直近月は2か月平均。

域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値ウェイト	生産				
		10 - 12月期	1 - 3月期	1月	2月	3月
化学	12.4	▲5.5	▲0.6	3.8	▲5.9	0.8
電気・情報通信機械	11.7	▲9.0	▲7.7	▲0.7	1.8	▲11.4
汎用・業務用機械	10.4	▲10.5	8.0	0.0	▲8.2	21.1
生産用機械	10.1	▲20.1	10.3	1.3	5.8	▲12.5
輸送機械	8.7	▲5.6	10.1	13.8	▲7.9	1.4
鉱工業	100.0	▲6.9	1.8	2.9	▲2.3	▲2.1

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。

2. 1 - 3月期、3月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費は新型コロナウイルス感染症の影響により、急速に減少している。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比0.6%増、2月は同1.8%減、3月は同3.2%減となった。

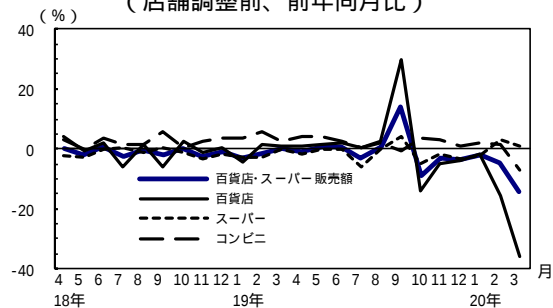
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店は、1月は、婦人・子供服・洋品等が減少したことにより、前年を下回った。2月は、婦人・子供服・洋品等が引き続き減少したことにより、前年を下回った。3月は、婦人・子供服・洋品等が引き続き減少したことにより、前年を下回った。

スーパーは、1 - 3月期は、飲食料品等が増加したことにより、前年を上回った。

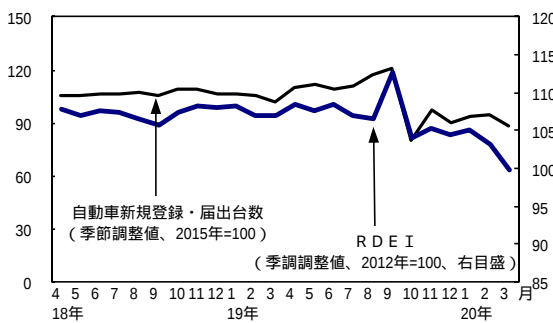
4月は、休業や営業時間の短縮を実施した店舗がみられた。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



	2020年1 - 3月	2020年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	▲1.9	0.6	▲1.8	▲3.2
百貨店・スーパー(*2)	▲7.1	▲2.1	▲4.5	▲14.6
百貨店(*3)	▲18.3	▲2.0	▲15.8	▲35.9
スーパー(*3)	0.6	▲2.2	3.2	0.9
コンビニ(*3)	▲1.3	2.1	1.7	▲7.2
乗用車(*4)	▲11.9	▲12.8	▲11.2	▲11.8
(季節調整値)(*4)	3.2	3.2	1.4	▲6.8

RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



(備考) 1. 季節調整済前期(月)比(%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の近畿(福井、滋賀、京都、大阪、兵庫、奈良、和歌山)の値。

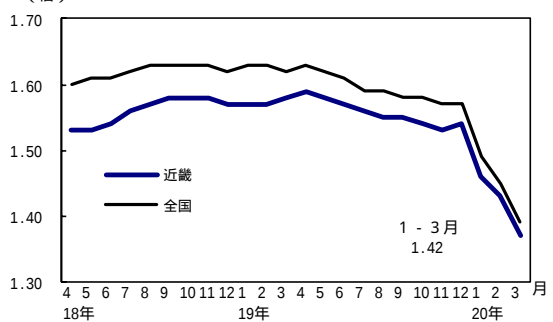
4. 乗用車は、新規登録・届出台数 上段は前年同期(月)比(%)

3. 雇用情勢

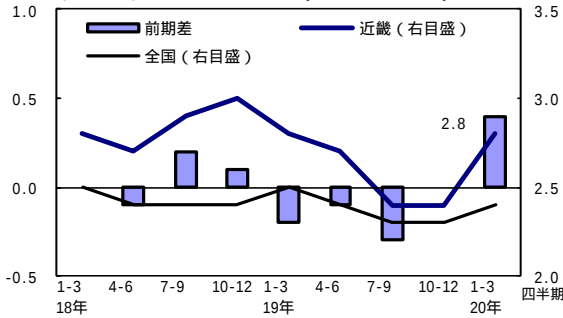
雇用情勢は新型コロナウイルス感染症の影響により、弱さが増している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期を上回っている。

(倍) 有効求人倍率 (季節調整値、就業地別)



(ポイント) 完全失業率 (季節調整値) (%)



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和2年4月調査) 景気判断理由の概要

8. 近畿

(良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野		判断	判断の理由
現状	家計動向 関連	×	・ビルのテナントや貸家の賃借人から、賃料の減額や支払延期などの依頼がきている（住宅販売会社）。
		▲	・ファッション関連などでは、営業の自粛によって来客数が激減しており、特に年配客の来店が減っている。食品についても、生鮮3品の売上は好調であるため、買上単価は下がっていないが、営業の自粛による店頭売上の減少が続いている（百貨店）。
		□	・いわゆる新型コロナウイルス特需であるため、喜べないのが実情である（スーパー）。
	企業動向 関連	×	・新型コロナウイルスの感染を予防しながら、事業を継続しているが、対策の費用が膨れ上がっている。感染対策を行っても売上にはつながらないため、収益率の悪化が懸念される（建設業）。
		▲	・緊急事態宣言に伴う外出の自粛で、飲食店といったサービス業からの融資条件変更の申出が多発している（金融業）。
		□	・今のところは新型コロナウイルスの影響を受けていないが、今後はどうなるか分からない（電気機械器具製造業）。
	雇用 関連	×	・新型コロナウイルスの感染拡大で、新規求人数が前年比でほぼ半減となっている（職業安定所）。
▲		・学生の就職活動が厳しくなってきたと感じる（民間職業紹介機関）。	
その他の特徴 コメント		×：外出の自粛要請により、客の乗車機会は3月に比べて急激に減少し、昼間、夜間共に、営業収入は5割以上の減少となっている（タクシー運転手）。 ×：自動車メーカーの生産休止による影響が大きい（金属製品製造業）。	
先行き	分野	判断	判断の理由
	家計動向 関連	×	・新型コロナウイルスの影響により、自動車部品の販売が少なくなっている（乗用車販売店）。
		□	・新型コロナウイルスの感染拡大が終息に近づけば、また需要が復活する（都市型ホテル）。
	企業動向 関連	×	・利益率の高い、製造業の荷物量が前年を大きく下回っている一方、利益率の低い通販の荷物が前年よりも多い。この状況は今後も続きそうである（輸送業）。
		▲	・新型コロナウイルスの影響で、インスタントラーメンや袋に入った大手メーカーのパンの販売が増えており、中間原料の販売が好調である。ただし、食品以外も含めた売上全体でみると、落ち込みが激しい（化学工業）。
	雇用 関連	×	・特に、この2～3か月の悪化が一番大きくなりそうである。企業活動が再開されて軌道に乗るまでは、悪化の一途となる（人材派遣会社）。
その他の特徴 コメント		×：5月になれば、需要は更に減少すると予想される（繊維工業）。 ×：まだ新型コロナウイルスの影響は先行き不透明であるほか、東京オリンピックなどの明るい材料も見当たらない（新聞社「求人広告」）。	

(D I) 現状・先行き判断D Iの(近畿)推移(季節調整値)

